

よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信 二十号

2009.11

シリーズ
絵金百話

第十九話
お待ちなせえやし！

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2009年11月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
http://www.ekingura.com/

幕末ゆめ道場「幕末維新の土佐」

～博物館学芸員巡回講座 平成22年～ 土佐・龍馬であい博

1月23日(土) 13:30～15:10	南国市保健福祉センター	定員 70	■「龍馬と慎太郎が描く国家像」 中岡慎太郎館 豊田 満広 ■「絵金と土佐の幕末文化」 絵金蔵 横田 恵 ■「『おーい！龍馬』まんが作者の込めた思い」 香美市立やなせたかし記念館 田所菜穂子
1月30日(土) 13:30～15:10	四万十市立文化センター	定員 100	■「龍馬を見抜いていた男・樋口真吉」 高知県立坂本龍馬記念館 前田由紀枝 ■「三菱ゆかりの人々」 宿毛市立歴史館 矢木伸欣 ■「龍馬・兆民・秋水」 高知市立自由民権記念館 筒井秀一
2月13日(土) 13:30～15:10	社会福祉センター (土佐清水市)	定員 100	■「同じ夢で結ばれた 龍馬と万次郎」 高知県立坂本龍馬記念館 前田由紀枝 ■「ジョン万と河田小龍」 高知県立美術館 河村章代 ■「幕末の国学者・鹿持雅澄とその周辺の人びと」 高知県立文学館 森 香奈子
3月13日(土) 13:30～15:10	ゆすはら座 (梶原町)	定員 100	■「龍馬脱藩」 高知県立坂本龍馬記念館 三浦夏樹 ■「那須信吾伝」 佐川町立青山文庫 片岡 健 ■「文学者がえがいた龍馬～坂崎紫瀾・司馬遼太郎・宮地佐一郎～ in 梶原」高知県立文学館 津田加須子
3月27日(土) 13:30～15:10	宿毛市立 宿毛文教センター	定員 80	■「宿毛の群像」 宿毛市立宿毛歴史館 矢木伸欣 ■「弥太郎の夢とゆかりの人たち」 安芸市立歴史民俗資料館 門田由紀 ■「龍馬と土佐藩」 高知県立坂本龍馬記念館 三浦夏樹

絵金屏風修復・保存活動へ —ご寄附のお願い—

赤岡に残る絵金の屏風絵23点は、幕末より祭礼文化とともに地域の所蔵家の手によって伝えられてきました。平成17年からは絵金蔵の収蔵庫に保管されていますが、約150年の時を経て、絵の具の剥落を中心とする傷みがあちこちに見られるようになっていきます。

現在、赤岡では従来それぞれ活動していた4地区と個人の所蔵家がひとつになり「赤岡絵金屏風保存会」を立ち上げ、絵金蔵運営委員会とともに屏風絵とそれを飾る祭礼文化をより長く後世に伝えていくためのさまざまな活動を行っています。

どうか、赤岡の絵金屏風の修復・保存とそのための活動に、皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

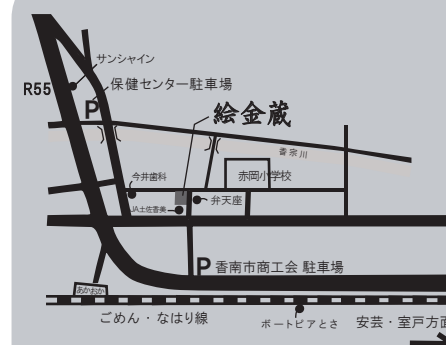
赤岡絵金屏風保存会・絵金蔵運営委員会

〔絵金蔵〕

開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時半まで)

観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
(15名以上の団体は各50円引き)

休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は火曜)
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵(通称・絵金)。彼は土佐各地の祭礼に多くの芝居絵屏風を残しました。絵金蔵は、平成17年2月、赤岡の地に残る23点の芝居絵屏風を収蔵・保存するために作られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

年に一度
絵金の文化を
守るため
：伝承
：次の世代へ
伝えるため
縁結び
：地域を超えて
世代を超えて

昔赤岡と今赤岡

partⅡ 浜口富治と絵金

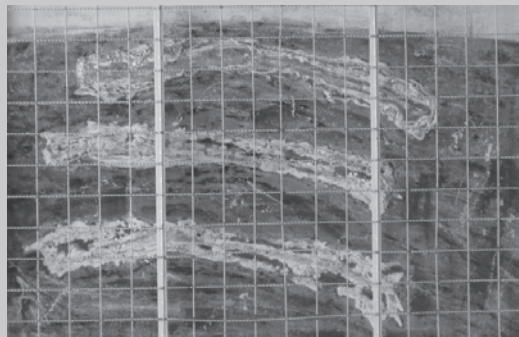
高知県の50、60年代における前衛美術界をリードしてきた美術作家、浜口富治(赤岡町出身、1921-2009)の残念ながら、2009年5月13日、87歳で他界しました。「前衛土佐派」を立ち上げ、次々と作風を変貌させながら、真摯に、時に過激に表現の可能性を追い求めた芸術家でしたが、いち早く絵金の芝居絵屏風を世に紹介した一人でもありました。故郷赤岡に残された彼の作品とともに絵金との関わりを振り返ります。



富治の見た絵金

——「絵金の絵は食いつくきに、気をつけよ」。祖母は少年の私に、そんなことをいって夏祭りの夜に絵金の絵を見に連れて行ってくれ、絵の物語を聞かせてくれた。幼い私は息を呑み興奮して見たものである。^{*3}

—— 絵金は絵を描くのに多忙であった。庶民の欲するどんなものにも描きまくった。多くの弟子に色を塗らせ、凄まじいスピードで描いている。見事な筆遣いと思われる絵には、オートメーションに等しい制作の速さがある。現代のアニメプロダクションの先駆者であり、企業体制を創っている。そして野外展の展示方法をとるなど、恐ろしい画家であったに違いない。^{*1}



赤岡小学校の体育館東壁にある作品。ボールを避けるための金網がつけられている。透明感のある鮮やかな青を背景に、力強い白のラインが浮かび上がる。



美術評論家、中野中氏による企画「新世紀の顔・貌・KAO—30人の自画像展」第1期に出展された晩年の自画像。(白木谷国際現代美術館蔵)

浜口富治略年譜

1921年(大正10年) 赤岡町に生まれる。

1946年(昭和21年) 山脇信徳に師事。

1949年(昭和24年) 第一回読売アンデパンダン展に出品。

1957年(昭和32年) 新象作家協会第一回大会賞受賞。会員となる。
第三回安井賞候補となり、国立近代美術館に出品。

1960年(昭和35年) 前衛美術団体の土佐派を結成。

1961年(昭和36年) 銀座村松画廊にて個展(刃物の入った作品)

これら一連の刃物を使った作品が読売アンデパンダン展で出品拒否にあうが、同展開場外にて単独で作品を公開し、さらに作品をポストンバックにつめ、ゲリラ的に都内各所で移動美術展を実施、過激かつユーモアあふれる活動を行う。

以後、高知を拠点に先鋭的な活動を展開、高知市長賞・高知県文化賞等を受賞し、海外にもたびたび出品する。94年には千葉市立美術館、高知県立美術館に作品が収蔵される。高知県展の発展にも尽力した。^{*}武内光仁氏の御教示による。



赤岡町本町の親族の家に贈られた色紙。白牡丹が伸びやかに描かれる。

絵金、世に出る

—— 戦後、絵金が入りにあまり知られていない時分、県立図書館長の川村源七先生から「君の郷里にある絵金の本物を見せてほしい」と申し出があった。私は赤岡のカトリック教会前の宗石の靴屋さん宅に行き、厚意で保管してくれている絵金屏風を長持ちに入れたままお借りした。これを図書館が用意したトラックで高知市に運び、図書館内や追手門前に展示した。こうして絵金の絵が高知市民の眼前に初めて現れたのであった。

その時に、高知大学の八波直則先生が大変感動して、絵金のことを東京の広末保氏に知らせ伝えた。広末氏は高知市出身で「かくし絵やかくし田」を戦後見直すべき問題として本に書き、その中で絵金を国内に広く紹介した^{*2}。これに続いて雑誌「太陽」が私のところに取材に来た^{*3}。さらに私は美術誌「みづゑ」の編集長、生尾慶太郎氏を招待し、絵金特集号を出版してもらった^{*4}。^{*}¹

^{*}1 浜口富治『海と赤の幻想』高知新聞社 2000年7月

^{*}2 広末保・藤村欣一郎『絵金 幕末土佐の芝居絵』未來社 1968年7月(のち『悪場所の発想』<三省堂 1970年>に再録)

^{*}3 『太陽』No.34 特集・土佐の芝居絵 平凡社 1966年4月号

^{*}4 『みづゑ』No.789 特集・絵金＝幕末土佐地狂言怨念図譜 1970年

絵金百話

第十九話 お待ちなせえし！

うきよづかひよくのいなづま すずがもり
浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森

< 概要 >

『浮世柄比翼稲妻』は文政6年(1823)3月、時代世話物の歌舞伎狂言として江戸・市村座で初演されました。作者は四世鶴屋南北^{つるやなんぼく}。

山東京伝の読本『昔話稲妻表紙』を題材とし、男伊達で知られる幡随院長兵衛^{ばんずいいんちやうべえ}(1622-57)の「おわけえの、おまちなせえやし」の台詞と共に、江戸歌舞伎の名作として知られています。実際に幡随院長兵衛という人物は浅草に住み、旗本の代わりに人足の手配をする割元として、また町奴^{まちやっこ}の親分として百数十人の子分を持ち、旗本奴と対抗しました。明暦3年(1657)7月、旗本神祇組の頭領、水野十郎左衛門の屋敷で殺されたと伝えられています。この事件は、早くは延享元年(1744)に歌舞伎で取り上げられ、幡随院長兵衛は以後数々の芝居に登場してきました。

一方、相手方の白井権八も平井権八という実在の人物がモデル。因州・鳥取藩主池田光仲の家臣平井正左衛門の長男で、寛文12年(1672)秋、父の同僚を殺傷し江戸に逐電。吉原の遊女・小紫との遊興費を手に入れる為、辻斬り130名余に及んだといひます。ある時、東昌寺の住僧随川^{ずいせん}にかくまわれ、尺八を習い改心。両親に一目会いたさに虚無僧となって郷里に帰りますが、両親はすでに他界しており、観念して江戸に戻り自首、磔刑^{たっけい}となり本作の舞台となる鈴ヶ森刑場に晒されました。権八を慕い吉原から逃げてきた小紫は、東昌寺の権八の墓前で自害したといわれ、現在、目黒の東昌寺跡に権八と小紫の比翼塚が残されています。多くの歌舞伎同様、この作品もこうしたゴシップを巧みに取り入れながら、今日まで上演される歌舞伎の代表的名作となりました。

さて、絵金の描く『浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森』、ゆるぎない画面構成とコントラストの強い色調が特徴です。ほの暗い闇から浮かび上がる幡随院長兵衛の鮮やかな衣装と白井権八の色気を含んだ美しい顔、さらに眼をこらすと鮮血にまみれた雲助たちの白い死体が生々しく迫ってきます。妖美、陶酔、残酷、怨念、滑稽…さまざまな言葉で語られてきたこの絵はもっとも絵金らしい要素に満ちた代表作のひとつとして、いまでも人気の高い作品です。

赤岡の絵金屏風23点の中で直接的に人物が食事をしている姿を描いたものは3点、そのうちの1点、「伽羅先代萩 御殿」は、歌舞伎の筋にもある鶴千代に毒饅頭を食べさせようとしている場面です。ここでは、芝居の見せ場のひとつを絵で再現しています。



①
よしつねせんぼんさくら
「義経千本桜
すしやの段」
部分

鮎のなれずし
いがみの権太が
梶原景時に、継盛と
偽り小金吾の首を差
し出すその後ろで…

将軍より 下された菓子

陰謀を企む栄御前が、足利家の幼君鶴千代に見舞いと称して毒入り饅頭を差し出します。制止する手は乳母の政岡。



めいぼくせんだいはぎ ごてん
「伽羅先代萩 御殿」部分

しかし、他2点を見ると、「木下蔭狭間合戦 石川五右衛門 壬生村」「義経千本桜 すしやの段」ともに、その画の中心人物ではない、いわば脇役の人物が食事をしています。しかも、画の中の出来事に全く参加していません。

①は平維盛の詮議の真っ最中、すしやのすし桶から魚をつかみ食いする梶原景時の家来、②は天下を乗っ取ろうと企む石川五右衛門が、公家に扮しているすきにこっそり酒や肉を食らう手下たち…

酒と肉

お頭五右衛門の着替えの手伝いそっちのけで、肉と酒をこっそりと…



②
このしたかげはざまかつせん
「木下蔭狭間合戦
いしかわごえもん みぶむら
石川五右衛門 壬生村」
部分

〈番外編〉



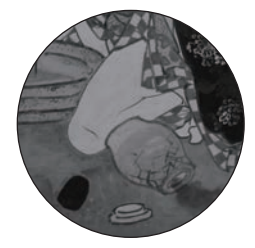
お茶しながら火事見物？
指の先には火事現場…と、お茶を運ぶ小坊主さん。

「やおやしち
八百屋お七
まっしやうし
吉祥寺の場」



酒と肴(のしあわび)
夫の帰りを喜ぶ酒が別れの盃に…

「ひがしやまさくらそうし
東山桜荘子
きくらさうし こわか
佐倉宗吾子別れ」



茶臼で挽く抹茶
動揺して挽いた抹茶が散乱。

「八百屋お七
吉祥寺の場」



法皇より下賜された酒
酒がに酔い、怒り上戸になる平次。
「源平布引滝
げんぺいぬのびきのたき
まつたけはんきよう しの
松波検校琵琶の段
(小桜責め)」

鈴ヶ森で、絵金は、様式化された歌舞伎演技の虚構を思いきり大胆にとりこんでいる。人間的なドラマの内容を拒否し、その拒否の代償としてなりたつ瞬間の様式美が歌舞伎にはある。そこに歌舞伎固有のドラマがあるともしえるが、絵金はその歌舞伎的発想を拡大した。だが、そのとき絵金は、歌舞伎固有のドラマを起点として生かしながら、人間的に無内容な空虚感を一挙に破壊力へとつきすすめる。虚無の破壊力。そして泥絵具の質感がその物質化に耐える。若衆姿の権八の、その衆道のエロティシズムも苛虐的だが病んではおらず、背徳のエネルギーに転化される。絵金の不逞な黒々とした哄笑が、心情を拒否した様式主義的な型を逆手にとって、虚無の破壊力へと転換した。舞台の上で必ずしも実現されるとは限らない原初的なカブキの理想が、幕末の混迷・退廃を契機に噴出したように思われなくもない。

広末保「幕末転形期の芸術」
『絵金 幕末土佐の芝居絵』未来社 1968年7月

「鈴ヶ森」を語る

—作家・研究者たちの言葉—



金蔵はこれら歌川派の錦絵の影響も蒙ったであろう。権八の口の表現などは、まさにこの時期の役者絵のなかに見出すことのできるものである。また眼の表現は、この時期の歌川派ほど極端にその特徴を誇張したものではないが、それがかえって実物の半四郎はかくもあらんという気にさせてくれる。それにしてもぞっとするくらいの色気をもった眼には違いない。絵金の江戸滞在中の上演記録を調べると、天保元年、正月の市村座に「曾我評判比翼男」なる演目が見出され、曾我物との緋い交ぜではあるが、半四郎が白井権八を演じたことが確かめられる。…中略…また人物の肢体にも歌川派の役者絵の顕著な影響を見ることができる。たとえばこの「鈴ヶ森」での権八の踵を接して「八」の字に開いたポーズは、むしろ歌舞伎特有のものであるが、これほど様式化して描くのは豊国以後の歌川派だといえるし、さらに、腕や、脚部から足先への表現にみる筋肉の塊ごとに囲むような描線もまた浮世絵版画の相模絵などからヒントを得たかの推測をなさしめる。

大久保純一「絵金 幕末土佐の芝居絵」
『幕末・明治の画家たち—文明開化のはざまに』ペリカン社 1992年12月

アンフォルメル*のように自由奔放に流した赤い血。対立的に描かれている侠客幡随院長兵衛と若衆白井権八の妖しい美。附近に飛び散る首の面相、怨念の相、いや、その死顔が滑稽に見え、惨劇の凄まじい光景は、雲間から出る月の光と、この滑稽な死人の相で画面を別の次元の世界に浮かび上がらせる。

浜口富治「食いつく絵金の泥絵」
『みづゑ』No. 789 特集・絵金＝幕末土佐地狂言怨念図譜 1970年

*アンフォルメル（フランス語：Art informel）
1940年代半ばから1950年代にかけてフランスを中心としたヨーロッパ各地に現れた、激しい抽象絵画を中心とした美術の動向をあらわす言葉。

幡随院長兵衛と白井権八とのあいだには衆道の気分が濃密にただよっている…中略…ふたりのあいだのこういう関係は、南北の戯曲そのものには書きこまれてなく、文政6年（1823）、初演のときの幡随院役・七代目市川団十郎と権八役・六代目岩井半四郎との現実の関係が演技に反映して、以後型として踏襲されることになったものだという。つまり、絵金の「鈴ヶ森」はその点ではあきらかに江戸の舞台につながっているものだとわかる。雲助たちのダンマリのあと、幡随院は権八に向かって手の提灯をさしだし、文字通りの正面をキル。まわりに飛び散った雲助たちの死体がなんとも残酷である。江戸の舞台がタテのおもしろさと、切りおとされた首や手を小道具で見せることによってグロテスクを茶気にかえる演出を身上としていたのにたいして、この残酷さはどうであろうか。権八の色気はひときわあやしく、首や手の真っ赤な切り口とのあいだに、すさまじいまでのコントラストをつくりだしている。

大西廣「位相の転換—芝居絵に変身の悲願を託す」
『美術手帖』通号345号 1971年8月

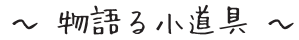
〔参考文献〕

*『絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年 *高橋幹夫『シリーズ「江戸」博物館2 絵で知る江戸時代』芙蓉書房出版 1998年8月

東海道五十三次の宿場の第一宿、江戸の入り口にあたる品川宿の鈴ヶ森刑場は、浪人による犯罪が急増していた当時、江戸に入る浪人たちに警告を与える意味で設置されたと考えられています。

つきだされた提灯に身をそらし、流し眼を送るように長兵衛を見返る白井権八。白い肌、細い首、着物の裾をひるがえして膝を見せる辺りも、色若衆としての役どころを十分に踏まえた描写です。

権ハがかかげる小田原提灯の向かって右側は「品川宿」、左側は「大和屋」と見えます。「大和屋」は権ハを繰り返し演じ「眼千両」^{めせんりょう}とたたえられた美貌の女形、五代目若井半四郎^{いわいはんしろう}の屋号。



鈴ヶ森を象徴する小道具として歌舞伎の舞台上に登場する題目塔。通常「南無妙法蓮華經」と記すところ松金は「友竹(斎)」とこっそりサインをしています。よくよく眺めると、かきみだり分らない、難易度の高い(!?)隠し落款です。



権八を襲い、逆に返り討ちに遭う雲助たち。画面のあちこちに皆殺しにされた死体が散らばっています。血なまぐさい幕末の世相を思わせる、迫真の描写。

金龍山とは軒ならび、^{あずま}吉原^{おどこ}すぐめ都鳥、陽田
 の流れを向ふに請け、^{あずま}東男^{おどこ}のはしくれと、噂
 にのった私は、ごろ付き上りの、けちな野郎
 でござります… *10

■ お若ひの、待つしやい。

「おけがもねへ御様子だが、どこも痛みはいたしませぬか。」

見誤ったとはいえ、いきなり斬り付けてきた権八に優しい言葉をかける幡随院長兵衛。権八の腕前に惚れ込み、難儀を聞いて「そう承たらこんりんざい、お世話仕抜くは持前の、江戸根性の男一匹。」と見栄を切ります。

ばんずい いんちようべえ
幡随院長兵衛

白井権八

父
斬殺

斬殺

→父

本庄助八

飛脚
富田兵衛

雲助*

政・辰・市・六
どぶ六・又八

くもすけ
＊雲助…江戸時代、宿場や街道において荷物運搬や、
駕籠かきに携わった人足のこと。

— あらすじ —

東海道品川の宿に近い鈴ヶ森を通りか
 かった飛脚富田兵衛を政や六、辰ら雲助
 達^{くもすけ}が取り囲み、身ぐるみを剥ぐ。その富
 田兵衛の持ち物からお尋ね者^{いんしゅう}、因州・因
 幡^{なば}のしらこんばち^{しらこんばち}が江戸表に出るという知ら
 せを読んだ雲助たちは、権八に父を討た
 れた本庄助八の助太刀^{ほんじょうすけ}をして褒美^{ほうび}の分け
 前をもらおうと色めき立つ。

そこへ雲助のどぶに連れられた権八があらわれる。金を巻き上げようとするどぶを追ひ払い、政と辰たちが権八に近づき案内をするふりをしてとびかかる。

そこへ駕籠に乗って幡随院長兵衛があらわれ、権八がつぎつぎと雲助たちを斬り倒すのをじっと見守る。長兵衛に気づいた権八が一味と思い込んで斬ろうとするが、長兵衛はその手をとらえ、通りがかりの旅人であるとつげる。長兵衛は権八の腕前に感嘆し、お尋ね者となった次第を聞いて身柄を引き受けるという。2人は江戸での再会を約束して別れるのだった。



〔参考文献〕

- *1『鶴屋南北全集』第9巻 三一書房 1974年
- *2『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月
- *3『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月
- *4大西廣「位相の転換—芝居絵に変身への悲願を託す」『美術手帖』通号345号 美術出版社 1971年8月
- *5大久保純一「絵金 幕末土佐の芝居絵」『幕末・明治の画家たち—文明開化のはざまに』ベリかん社 1992年12月
- *6大久保純一「絵金筆 浮世柄比翼稲妻 鈴ヶ森」『国華』第1370号 国華社 2009年12月
- *7『絵金展 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年
- *8『絵金蔵収蔵品目録』亦岡町 2005年2月
- *9近森敏夫『絵金読本』改訂版 香南市商工水産課 2006年3月